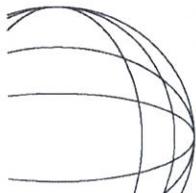
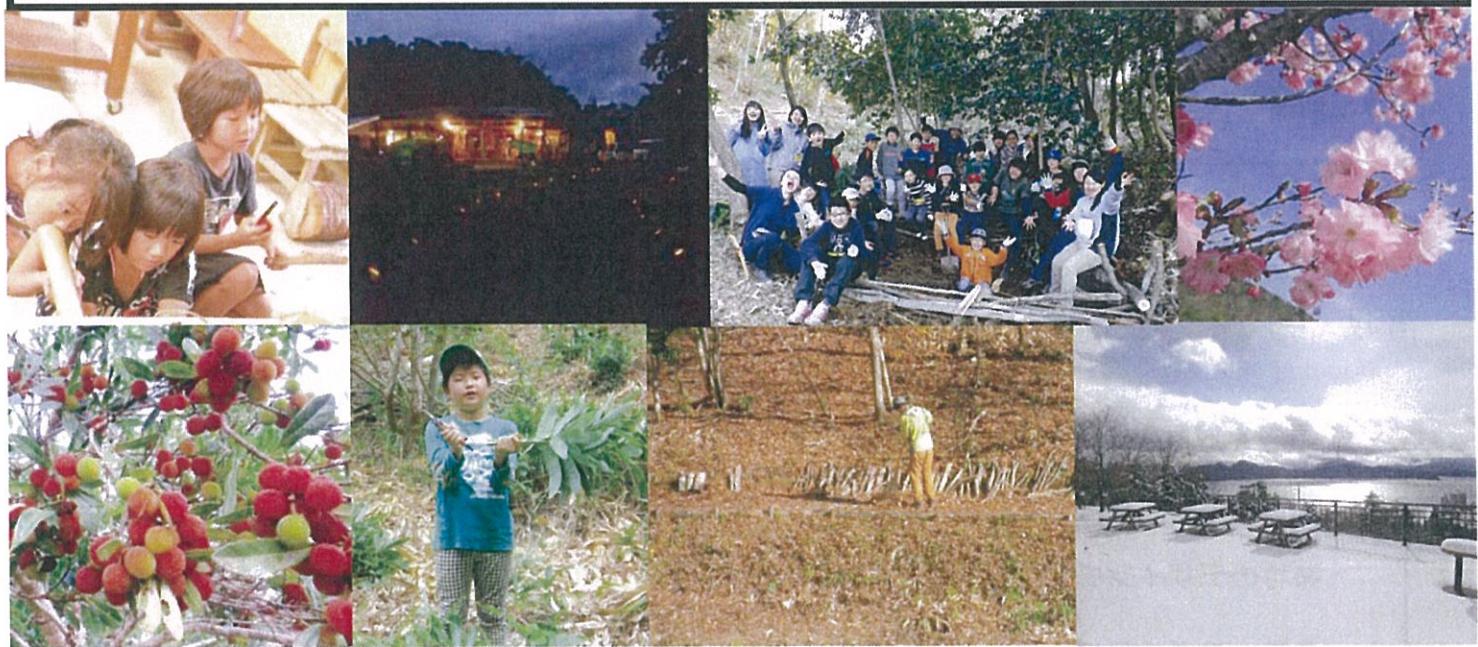


特定非営利活動法人 地球デザインスクール

平成 26 年度

活動報告書

Anual progress report



地球デザインスクール 事業報告書 目次

丹

後海と星の見える丘公園



環境教育

- 海ガキ・山ガキになろう
- うみほしクラブ
- どんぐりようちえん
- ユニバーサルキャンプ

2

森づくり

- 森人俱楽部
- いきいきプロジェクト
- 森づくり DAY

3

公園 NEWS

- 多目的広場 OPEN!!
- アースバックハウス
- 実績報告

3



地元地域・外部団体との

連携

地元地域

- 地域人講師
- みやづ 環の地域づくり推進ネットワーク
- 養老地域会議
- 出前授業

4

外部団体

- 地球デザインスクール
- コネクト三 TAN
地球育ミュージアム研究会
- インターン生の受け入れ
- 自然塾研修

5

宮津・竹



実行委員会事業

- 橋立風鈴
- 竹の手ぼうき
- 竹のデザインチャレンジ 2014
- 宮津・竹の教科書 2014
- アースガーデンみやづ 2014

6





地球に学び、未来につながる体験

環境教育

●海ガキ・山ガキになろう！

夏

8月3日～6日（3泊4日）**20名参加**



食器を竹から作り、ドラム缶のお風呂に入り、テントで寝泊まりしました。調理やお風呂の燃料も自分たちで森から調達するなど夏のサバイバルキャンプとなりました。海ではシュノーケリングをして、海の中の生き物も観察しました。

冬

12月25日～26日（1泊2日）

24名参加



石窯でリース型のパンを焼き、夜はクリスマスパーティーを楽しみました。クリスマスの翌日は、お正月の準備。年賀状やしめ縄飾りを作って、冬の行事を楽しみながら、自然の大切さに目を向けました。

春

3月28日～29日（1泊2日）**17名参加**



五感をフルに使って春の里山を楽しむ2日間。1日目は森づくりとして、木の伐採や笹刈りを行いました。2日目は、地元の方に地域を案内していただいた後、班で協力をして、写真だけを頼りに地域を散策するフォトウォークラリーを実施しました。

京都府立丹後海と星の見える丘公園

●うみほしクラブ

年間全10回実施

登録メンバー**19名**



月に1度のペースで活動しました。森の整備や田んぼでの草取りや稻刈り、タケノコ掘りなどを行いました。

1年間かけて整備して作った散策道を、お父さん・お母さんを案内する姿に子どもたちのたくましさや成長を感じました。

●どんぐりようちえん

年間全9回実施

14組 28名参加



未就学児とその親が対象です。季節の移り変わりや自然の不思議を感じるように、子どもたちのペースで散歩をし、遊びました。自然とのふれあいの中で子どもたち、大人たちのセンス・オブ・ワンダーと創造力を育みました。

●ユニバーサルキャンプ

10月18日～19日（1泊2日）

4名参加

毎年1度開催している軽度の発達障害をもつ児童・生徒を対象としたキャンプ。人との関わりの難しさや、生活のしづらさを抱えている子どもたちが、自然の中で自分の身体をたくさん使う2日間。畑でのさつま芋の収穫や食事作りを行いました。高校生がボランティアとして、子どもたちと関わってくれました。





いきいきとした森を創るために

森づくり

●いきいきプロジェクト 全21回 573名参加



園内はかつて、里山であった場所でした。しかし、石油や電気中心の生活に変わり、森は放置されて荒れていきました。森に手を入れることで、いのちあふれる「いきいき」とした森を蘇らせ、人も「いきいき」できる場づくりを行っています。伐採や下草刈り、散策道づくり、生き物のすみかづくりなど、季節に応じた作業をプログラムで行いました。幼児から大人までが参加し、いきいきとした森に近づいていきました。

もりんちゅくらぶ
●森人俱楽部

年間2回実施 11名参加



大人が中心となって森づくりを行うプログラムです。

チェンソー講習会では、コベルコ教習所や STIHL 社の協力を得て、チェンソーの使用方法や立木伐採なども実際にを行い、使用免許も取得しました。また、「海の回廊」という、海を一望しながら、散策できる道づくりを行いました。

●森づくり DAY

年間3回実施 13名参加



森づくりを身近に感じてもらうためのプログラムです。毎月1回実施し、主にファミリー層のお客様が参加しました。伐採や下草刈り、生き物のすみかづくりなどの作業を行い、元気な森づくりを行いました。

京都府立丹後海と星の見える丘公園



●アースバックハウス登場！

子どもの森に、土の家が誕生しました。

アースバックハウス工法という、土嚢袋に土を入れて積み重ね、手づくりで作る工法です。世界各地でワークショップを行っている、フランス人のザビさんが講師となり、10日間のワークショップを行いました。雨も降る中、試行錯誤をしながら参加者とともに作成し、子どものための遊び場が完成しました。



●多目的広場 OPEN!!



7月に多目的広場がオープンし、テントでの宿泊が8区画(40名)可能になりました。炊事場やかまど、トイレ、ファイヤースペースも備えており、個人・団体の利用の他、主催イベントでも活用しました。夏のキャンプでは、夜に星空を眺めながら、ドラム缶風呂も楽しみました。



●実績報告

来園者数 40,795名

宿泊者数 2,132名

プログラム参加者数 5,374名

地域に根ざして、公園と地域の魅力づくり

地元地域

●地元地域との連携

地元地域の方々と連携を取って、公園の魅力アップ、地域の魅力発信を行いました。

○サポーター活動 年間19回実施 延べ131名参加

地域のシニア世代メンバーによる公園サポーター。園内の草刈りや、畑での野菜づくり、山野草を育てるなど、公園の景観づくりを行いました。



野菜の収穫



夏の草刈りの一休み

○地域人講師

正月飾り（しめ縄づくり）や、郷土料理づくり、地域ガイド、田んぼでの米づくり、タケノコ掘りなど、地域の人に先生になつていただきての体験プログラムを実施しました。



しめ縄づくり



郷土料理づくり



田んぼづくり



タケノコ掘り



里波見ウォーク

地元地域・外部団体との連携

●みやづ環の地域づくり推進ネットワーク



アースガーデンみやづ
2014にて、ステージ部門を担当していただきました。
京都府職員の奥谷氏をファシリテーターに迎え、代表の大村氏と富良野自然塾から小川氏、海洋高校生2名で世代・立場を超えて、環境のことを考えるきっかけの場づくりを行いました。

●養老地域会議



○LOHAS コン Part 2

養老地域住民で構成されている養老地域会議主催の婚活イベントに共催し、企画を担当しました。2度目の開催となる今回は、鳥獣対策の防護網の設置作業や定置網体験などの田舎ならではの体験を通して、交流する機会を設けました。

最終的に5組のカップルを成立することができました。

●出前授業

うみほし公園の出前授業として、要望に合わせて授業を行っています。26年度は4度の出前授業を行いました。その内の2つを紹介します。

○京都府立加悦谷高等学校



地域人授業という講座を行っておられ、高校生に向けて丹後の魅力発信を行っています。その講座で公園の仕事についての講義を行いました。

○資母保育園

但東町の3保育園の保育士さん向けの講演を行いました。公園の事例紹介から、野外教育における注意点などを座学で行い、実際に野外において自然を見る視点を養うためのフィールドワークを行いました。





専門的プログラムの提供と人材育成

外部団体

● 地球デザインスクール



龍谷大学講師 谷垣岳人氏
里山の生き物観察



京都大学総合博物館 大野照文館長
微生物から進化の過程を読み解く



京都教育大学 田中里志教授
珪藻類の観察



京都府立大学 田中和博教授
林分調査の様子



京都大学大学院 宮下英明教授
近くの海で藻類を採取する様子



自然教育事務所 宙
田島由起子氏 星空の講座



琴引浜ネイチャークラブハウス
安松貞夫氏
漂着物の分類分けの様子

地持続可能な森づくりやそこに棲む生き物のこと、丹後の海のこと、宇宙のことなど9名の講師を招いて、講座を開催し、高校生や教員、一般の方など延べ75名が受講しました。現在、私たちが直面している地球環境問題を様々な視点から学び、フィールドにて実際に体験し、多くのことを感じた3日間となりました。

地元地域・外部団体との連携

● コネクト三TAN 地球育ミュージアム研究会



うみほし公園、琴引浜鳴き砂文化館、豊岡市立コウノトリ文化館および兵庫県立コウノトリの郷公園、新温泉町山陰海岸ジオパーク、(公財)丹波の森協会など、丹後・丹波・但馬の三丹地方の施設や団体が連携をしようという取り組みです。それぞれの環境教育プログラムの紹介や巡回パネル展などを通して情報共有や活性化をはかりました。

● 自然塾研修

スタッフのスキルアップを目的に自然塾ファミリーである、しまなみアースランドの今治自然塾と昭和記念公園の富良野自然塾東京校に研修に伺いました。今治自然塾では、社員研修プレ体験が行われ、参加者として体験に参加しました。他の施設の体験に参加する機会がないので、参加者視点での気づきがありました。富良野自然塾東京校では、公園管理の手法や組織的な管理方法のノウハウを学びました。また、どちらも他の施設のスタッフに自然塾の指導を頂く貴重な機会となりました。

● インターン生の受け入れ



海ガキ・山ガキになろう！などプログラムやイベントでの補助や、草刈などの環境整備の補助などスタッフの業務を体験してもらいました。学校団体の受け入れでは、学生が子どもたちにレクチャーをする場面もありました。

また、公園の季刊紙『うみほし通信』のイラスト提供など、得意分野を生かした活動も行い、学生の個性が光る活動となりました。



宮津・竹の学校とは、、、



竹は昔から、建築・造園・工芸に、また農具や漁具、生活用具にと使われてきました。プラスチックなどの代替品が増えたり、海外の安い材料が輸入されたりして、地域の竹が使われることが少なくなりました。そして、竹林は放置され、里山は荒廃し、獣害や地域景観を損ねるなどの問題が起こっています。地球デザインスクールは、2013年から京都大学や宮津市、NPO京都発・竹・流域環境ネットとともに実行委員会をたちあげ、京都府地域力再生プロジェクト支援事業助成を受けて、「宮津・竹の学校」に取り組んでいます。

●実行委員会事業



橋立風鈴



竹のデザイン
チャレンジ 2014



竹の手ぼうき



宮津・竹の教科書 2014

橋立風鈴は iBart 2013 in Miyazu で、宮津発の工芸品として考案されたものです。これから時代は、地域の自然を活用するべきであり、竹を通じて環境を考えるヒントとしてこの風鈴の活用を目指しています。

竹材関係、デザイン、造園、環境分野に携わる社会人・研究者・学生など約40名が参加しました。参加者はグループに分かれて放置竹林などの課題を抱えている宮津の竹の新たな可能性について考えました。

京都の庭師によって伝統的に使われてきた「手ぼうき」は竹の枝を束ねただけのシンプルな道具です。26年度は各地でワークショップを開催。このような活動が評価され、京都デザイン賞 2014 を受賞しました。

昨年度に続き、竹の教科書を作成しました。26年度の事業内容のまとめや、今後の竹の教材となるように様々な視点で竹を考察しました。

宮津・竹の学校

●アースガーデンみやづ2014



フードエリア
里波見カントリーフレンズ



ワークショップエリア
竹の手ぼうきづくり



ステージエリア
センス・オブ・ワンダー
読み語り



富良野自然塾 「地球の道」



山田養蜂場
「みつばち教室」



今治自然塾
「森育」

竹の学校実行委員会メンバーの他、みやづ環の地域づくり推進ネットワークや、富良野自然塾、しまなみアースランドなどの自然塾つながりのメンバー、地元の高校など多くの団体と一緒に、体験・体感型イベント「アースガーデンみやづ 2014」を開催しました。

「ぐるぐる（循環）」をモチーフにした竹のオブジェに彩られた会場では、自然素材を使ったクラフトや環境学習プログラムなどの体験、丹後を題材にした写真・絵画コンクール、地域の旬をいただく食ブースなど、五感をフル活用するイベントとなりました。2日間で延べ700人が、竹を、里山を、自然を、地球を感じました。

